

理的な対策をたてること。

- (イ) 従来の各種処理方法の調査研究の総合と、それらの長短について、広い視野からの比較検討をすること。
- (ロ) 新考案の研究を奨励すること。
- (ハ) 尿尿処理に関する国立研究所を、差し詰め関東地区と近畿地区の2ヶ所に設けること。
- (ニ) 全国を適当な地区に分ち、各地区において適当な組織を作り、各々調査研究並びに対策立案を行うこと。
- (ホ) 前条の実現に必須な予算措置。

3-11

庶発第17号 昭和30年1月11日

内閣総理大臣 鳩 山 一 郎 殿

日本学術会議会長 茅 誠 司

国立放射線基礎医学研究所の設置について（申入）

わが国が、広島、長崎において原子爆弾を投下された結果、人命その他にばく大な被害を受け、また最近においてはビキニ環礁で原子爆弾の実験が行われ、多くの問題を提起するにいたり、シベリヤにおいても同種の実験が行われた模様である。

また、放射線が医学上に応用せられる場合、集団検診の場合および将来わが国において原子力の平和的利用が実現する場合にも、放射線による障害を防止するための研究を行わなければならない。

このように人体に対する放射線の影響は、われわれの日常生活にきわめて密接な関係をもっており、放射線医学についての関心は極めて深いものがあるにもかかわらず、わが国では現在までその基礎的な研究に対する対策は、必ずしも十分ではなかつた。

よつて、このような現下の状況にかんがみ、また将来の要求に応ずるため、放射線基礎医学研究所を早急に設置するよう、ここに本会議第18回総会の議により申し入れます。

（別紙 添付参考書類）

1. 国立放射線基礎医学研究所設立趣意書
2. 同 上 機 構 案
3. 同 上 実 施 案 （省略する）

（別紙1）

国立放射線基礎医学研究所設立趣意書

放射線の人体におよぼす影響、これにともなう障害除去の対策ならびに放射線の医学的応用に関する研究は極めて重要である。

諸外国の例をみると、例えば、ドイツではすでに約30年前からMax Planck Institut für Biophysikにおいて、X線の基礎医学的研究が物理学、生物学、化学、医学の各部門について百数十人の研究員のもとで行われており、また、フンボルト大学医学部附属研究所においても同様な研究が約百名の研究員のもとで行われている。その他フランスではバリーにキューリー研究所、スウェーデンではストックホルムにラジウム研究所があつて、ヨーロッパ各国ではこの方面の研究の歴

史は古い。

一方、近年原子力研究とその応用の進展にともない、アメリカを始め欧州各国においてきわめて大規模な放射線の基礎医学的研究が行われている。

しかるにわが国では、ビキニ事件を契機として放射線の測定器ならびに測定法、放射線の人体に対する最大許容量、汚染の除去その他放射線の影響に関する諸種の研究が切実な課題となり、それらが個々に進められてはいるが、いずれもきわめて制約された条件のもとに十分な成果を期し難い有様であつて、これらを総合して、物理学、化学、生物学等を取り入れて放射線に関する基礎医学の研究体制を確立することは、現下内外の情勢にてらし、喫緊の要務である。これがためには医学、物理学、化学、生物学等の諸分野におけるそれぞれの権威者を網らし、別表に示すような機構組織を有する国立放射線基礎医学研究所を急速に設置して、強力に総合研究の実をあげると共に、この分野における指導的研究所として社会各方面の要望にこたえる必要がある。

なお、この研究所は、わが国学界の現状にかんがみ、全国の研究者にもその施設を開放利用せしめ、この分野の研究の促進とあわせて後進の養成とに資し得る方途を講ずることが望ましく、これに要する施設設備の概要は別紙のとおりである。

(別紙2)

国立放射線基礎医学研究所機構案

部 名	室 名	研 究 内 容
物理研究部	計 測 研 究 室	放射線の測定器及び測定法の研究とその統一
	機 器 第 一 研 究 室	診断用機器に関する研究
	機 器 第 二 研 究 室	治療用機器に関する研究
	感 光 材 料 研 究 室	普通写真、分光写真、エックス線写真、ラヂオオートグラフその他一切の感光材料の研究
化学研究部	生 化 学 研 究 室	放射線作用の生化学的研究
	放 射 化 学 研 究 室	アイソトープの分離精製法及び標識化合物の調製法に関する研究
生物研究部	汚 染 除 去 研 究 室	汚染の除去法の研究
	人 体 研 究 室	放射線の人体に対する影響の研究
	動 植 物 研 究 室	医学に目標をおいた放射線生物学の研究
遺伝研究部	遺 伝 研 究 室	放射線の遺伝に対する作用の調査及び研究
診断研究部	放 射 障 研 究 室	放射線の診断的応用の基礎研究
	アイソトープ研究室	アイソトープの診断的応用の基礎研究
治療研究部	放 射 線 研 究 室	放射線の治療的応用の研究
	アイソトープ研究室	アイソトープの治療的応用の研究
障害研究部	最大許容量研究室	放射線の人体に対する最大許容量の決定 (体内放射の場合を含む)
	健 康 管 理 研 究 室	放射線障害の早期発見、予防警戒法の研究 (体内放射の場合を含む)

診断治療研究室	放射線障害の診断法，治療法の研究 (体内放射の場合を含む)
技 術 部	各部の研究を促進するための補助的な役目をするもので，金属工作，電気工作，ガラス工作，写真撮影 (文献複写を含む)，飼育栽培，器具消耗品の管理を行なう。
事 務 部	庶務課，会計課，施設課，図書室

(別紙 3)

国立放射線基礎医学研究所設置実施案

1. 予 算	8 8 3,7 0 0 千円
(イ) 土地・建築費	4 5 3,7 0 0 "
(I) 主建物(鉄筋コンクリート2階建 延2,5 9 0 坪)	2 8 4,9 0 0 "
(II) 附属建物	1 8,8 0 0 "
内訳 動物舎	2 0 坪 4,0 0 0 "
温 室	2 0 坪 6,0 0 0 "
動植物連続弱照射室	8 0 坪 8,8 0 0 "
(III) 土 地	3 0,0 0 0 坪 1 5 0,0 0 0 "
(ロ) 施設設備費	4 3 0,0 0 0 "
2. 定 員	1 6 5 名
内訳 研究員 6 4 (教授級 1 3, 助教授級 1 7, 助手級 3 4)	
研究補助員	4 0
技 術 員	2 1
事務員その他	4 0
3. 年次計画 3 年計画とする。	
総 額	8 8 3,7 0 0 千円
第 1 年度 定員 2 5 名(人件費は含まない)	4 0 0,0 0 0 "
第 2 年度 定員 7 0 名増(")	3 0 3,7 0 0 "
第 3 年度 定員 7 0 名増(")	1 8 0,0 0 0 "
4. 年間経常費概算	9 8,3 4 0 "
内訳 人 件 費	4 4,5 5 0 "
教官研究費	3 2,1 4 0 "
試 作 費	1 0,0 0 0 "
飼 育 費	5,0 0 0 "
維 持 費	5,0 0 0 "
そ の 他	1,6 5 0 "